

高知大学 病院 ニュース

〔編集〕

高知大学病院ニュース

編集委員会

委員長 寺田 典生

〔発行人〕

高知大学医学部附属病院

病院長 横山 彰仁

平成26年度「医療安全・質向上のための相互チェック」

医療安全管理部長 瀬尾 宏美 専任リスクマネジャー 坂本 美和

国立大学附属病院では、医療安全・質の向上を図ることを目的として、2年毎に他大学病院を相互に訪問チェックしています。これによって、自院では気付けなかった問題点の指摘を受けるだけでなく、チェックに出向いた方も自院にはない良い点を他院から吸収できるという側面を持っています。本年度は、京都大学医学部附属病院のスタッフ6名が平成26年10月28日(火)に来院され、チェックが実施されました。



京都大学医学部附属病院の皆様

国立大学附属病院長会議常置委員会から通知のあった平成26年度重点チェック項目は、「内視鏡検査・治療及び造影剤検査・血管内治療に関する安全対策 -リスク評価、情報共有、患者観察、急変対応-」とされ、光学医療診療部及び放射線部においてチェックが実施され、後日講評が次のとおりありました。

(1) 内視鏡検査・治療について

① 内視鏡室において入室時から退室まで患者のバイタルサイン測定が行われていなかった。検査、治療によりバイタルサインの変動が予想されるため測定すべきである。



光学医療診療部でのチェック

② 看護助手により内視鏡洗浄が行われていた。内視鏡機器や洗浄機器について知識のある臨床工学技士がメンテナンスを行うことが質の保証につながると考えられる。

③ 限られた空間が有効に活用されているが、患者出入り側に内視鏡光源装置を配置する点は感染予防の観点から一考の余地があると思われた。また内視鏡洗浄は専用スペースで自動洗浄機を用いて行われていたが、同スペースが内視鏡施設入口付近に立地する点及びスペースの排気システムについては、今後さらに検討願いたい。

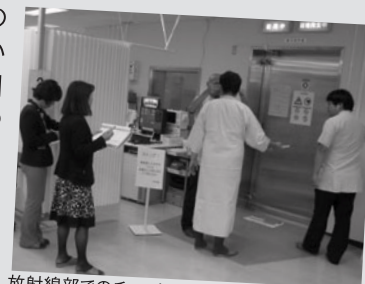
(2) 造影剤検査・血管内治療

① 血管造影検査において、術者のフィルムバッジ装着はプロテクターの内側のみだが、外側にも装着することで皮膚や目の被ばくを知る体幹部不均等被ばく線量を正しく評価できるため推奨する。

② 患者の同意書の説明内容を記した文面は、電子カルテでの説明文の閲覧・印刷権限が医師にしかなく、他職種が説明内容を含めた同意書文面を簡単に確認できる状況にない。

③ 血管内治療室でのタイムアウトなどが一部の職種(看護師)のみにより声かけが行われていたため、医師や技師を含む多職種での声かけを行ってほしい。

④ 造影剤使用時の腎機能評価について、検査日より何日(何か月)前までの検査結果を許容するのか、ということが病院ルールで決められていなかった。



放射線部でのチェック

平成26年11月21日(金)には本院スタッフが岐阜大学附属病院を訪問してチェックを行いました。見習うべき点は、医療安全管理体制として医師GRMが配置され看護師GRMと協働して活動しており、その結果、患者誤認防止策、多職種協働による検査結果の確認や見落とし防止策、RRS(Rapid Response System)の導入など、安全で質の高い医療が提供されていました。

この相互チェックの結果から、指摘を受けた項目は改善に取り組み、優れた点はさらに伸ばしていきたいと思えます。

今後とも病院職員で協働し、医療安全への取り組みを継続して頂く様にお願い致します。

「エコチル調査」の詳細調査が始まりました!

2011年1月から開始した、環境省の「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」では、「胎児期から小児期にかけての環境が子どもの健康に影響を与えているのではないか?」という中心仮説のもと、北海道から沖縄まで15ヶ所で、全国で10万人の妊婦さんにご参加いただき、お子さんが13歳になるまで調査を行っています。

高知大学は、四国で唯一の拠点として高知県のエコチル調査を実施しています。県内の医療機関にて、対象地区11市町村(高知市・南国市・香南市・香美市・四万十市・宿毛市・土佐清水市・梶原町・黒潮町・大月町・三原村)にお住まいの妊婦さんを対象に参加を募集してきました。2014年3月、計7094組の方が登録

をしてくださり参加募集は無事終了し、参加児が13歳になるまで続く追跡調査のスタートラインに立ちました(父親の参加は自由で計2385名が登録)。現在、3歳半を超えるお子さんから生まれて数ヶ月の赤ちゃん全員に、食生活や成長に関するアンケート調査を半年ごとに行っています。

2014年10月より、そのエコチル調査の参加者の5%(全国で5000名、高知県で約350名)を対象に新たに「詳細調査」が始まりました。対象になるのは、2013年4月以降に生まれたお子さんです。詳細調査では、通常お答えいただいているアンケートとは別に、3つの分野で更に詳しい調査をさせていただきます。

まず、訪問調査です。昨年12月より始まったこの訪問調査では、エコチル調査員がご自宅にうかがい、お子さんの布団や室内のハウスダスト、室内と屋外で採取した空気中の粒子状物質(PM_{2.5}, PM_{2.5-10})と化学物質(揮発性有機化

合物、アルデヒド類、オゾン、酸性ガス等)を測定するほか、家庭での化学物質の使用状況等に関する聞き取り調査を行います。この訪問調査は、お子さんが1歳半、3歳の時1回ずつ、その後13歳になるまでの間に1~2回行う予定です。

2015年4月からは、同じ対象者の方に、医学的検査と精神神経発達検査が始

まります。医学的検査では、実際に小児科医が診察をするほか、血液検査ではアレルギーを起こす物質に対する抗体(特異的IgE等)を測定します。精神神経発達検査では、臨床心理士や訓練を受けた検査者がお子さんの運動・認知・言語などについての発達検査を実施します。この2種類の検査は、2歳の時以降は、2年毎に行います。

妊娠中からご協力いただいた血液などは今後少しずつ分析が始まります。参加者全員が記入して下さるアンケートに加え、新たに始まった詳細調査に参加して下さる5%の方のご協力を得て、全てのお子さんの成長と健康を見守りながら、13歳になるまでエコチル調査が全国で続きます。デンマーク、ノルウェーに次いで世界で3番目の大規模出生コホート調査となります。県内の医療機関や自治体からのご協力もいただきながら、高知で、世界そして未来の子どもたちの為の調査を続けています。



県内各地を奔走してきたエコチル調査員たち

受賞報告特集

高知大学医学部附属病院における、今年度下半期の受賞者についてご紹介いたします。この他にも、本院では、受賞等について、随時ホームページへの掲載を行っています。

医学科3年生 神長 知美さんが日中麻酔討論会 Japan-China Symposium on Clinical Anesthesiology で最優秀賞(新井達潤賞)を受賞しました



「学際的痛み治療研究班」の神長知美さん(医学部3年生)が、2014年11月1日、東京で開催された日中麻酔討論会 Japan-China

Symposium on Clinical Anesthesiology で、最優秀賞(新井達潤賞)を受賞しました。

神長さんは、麻酔科学・集中治療医学講座 横山 正尚教授の指導のもと研究活動を行っており、今回、セロトニン症候群に対するデクスメトミジンの有効性についての研究発表を行いました。

日中麻酔討論会は日本臨床麻酔学会と中華麻酔科学会の両会員の学術交流を目的として、全国から演題を募集、採択された演題から、発表当日の口演内容(英語でプレゼン)などをもとに1名のみ最優秀賞を選出し、表彰されます。副賞として、2015年度中華麻酔学会(西安)の参加費ならびに賞金10万円が贈呈されました。

眼科学講座 石田 わかさん(大学院総合人間自然科学研究科医学専攻4年)が第68回 日本臨床眼科学会 Special interest group meeting において優秀賞を受賞しました



眼科学講座石田わかさん(大学院総合人間自然科学研究科医学専攻4年)が、2014年11月13日に神戸で開催された第68回日本臨床眼科

学会 Special interest group meeting (SIG)(眼アレルギー研究会)で優秀賞を受賞しました。

石田さんは、眼科学講座 福島敦樹教授、福田憲准教授の指導のもと研究を行っており、研究業績「マウスアレルギー性結膜炎に対する経口免疫寛容」が高く評価され、今回の受賞に繋がりました。

本研究では、アレルギー性結膜炎を発症したマウスにおける経口免疫寛容誘導のメカニズムについての解析を行い、摂取する抗原量によって異なるメカニズムが働くことを示しました。また、この研究をもとに、農業生物資源研究所によって開発されている花粉症治療米を用いた経口免疫療法についても検討しており、今後は花粉症治療米のヒトへの臨床応用を目指して研究を進めたいと受賞講演を行いました。

がん治療センター小林道也部長が European Journal of Surgical Oncology の 2013年 Excellence in Reviewing を受賞しました

がん治療センター小林部長が European Journal of Surgical Oncology の2013年 Excellence in Reviewing を受賞しました。同紙は European Society of Surgical Oncology と The Association for Cancer Surgery の official journal で現在の impact factor は2.892です。

この賞は Elsevier 社と European Journal of Surgical Oncology の編集委員会、編集委員長が毎年、全世界の査読者の中から慎重に選んだごく少数の者に与えられるものです。

なお、小林部長は2008年から同誌の査読者を務めています。



治験貢献賞表彰

高知大学医学部附属病院では、治験に貢献された医師に病院長より表彰状を贈呈しています。承認前の医薬品の安全性、有効性を確認する治験に貢献された医師を表彰することで、治験に対する理解とモチベーションを高めることを目的としています。

本年は、平成26年11月18日に治験貢献賞授与式を開催し、平成25年度に本院で行われた治験においてご活躍された、下記の先生方を表彰しました。

◆治験貢献賞

1位	整形外科 講師 川崎 元敬
2位	皮膚科 教授 佐野 栄紀
(同率)	皮膚科 講師 中島 英貴

◆治験実施優秀チーム賞

1位	老年病・循環器・神経内科 講師 大崎 康史
----	-----------------------



『帰宅困難』に備えた個人備蓄の推奨

会計課

大地震発生時には、誰もが帰宅困難となる恐れがあります。

医学部では職員1名1食分の食料・水を部署ごとに配布していますが、
医学部防災対策検討専門部会では、個人での職場での食料・水の「備蓄」を推奨しています。

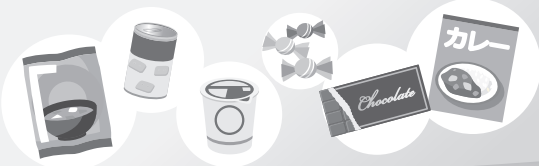


職場での 個人備蓄の ポイント

- ☑ 「長期保存できる備蓄品」ではなく、「流通在庫」として考えましょう。
- ☑ 賞味期限前に、昼食やお茶菓子として消費し、入替を行いましょ。
- ☑ 自分がよく食べるものを選びましょう。
- ☑ 火を通さずに食べられるもの、お湯(水)を注げば食べられるものを選びましょう。
- ☑ カロリー高めのものを入れましょう。
- ☑ 缶詰は缶切りの要らない、イージーオープンのものを選びましょう。

備蓄品例

パックごはん、カップ麺、缶詰(焼鳥・魚の煮付け・カレー・サラダ・おでん等)、レトルト食品(カレー・煮物等)、インスタント味噌汁、スープ、シリアルバー、フルーツ缶詰、チョコレート、クラッカー、飴、練羊羹、野菜ジュース缶、水(500mlサイズが便利)



賞味期限は、カップ麺は6ヶ月、野菜ジュース缶は2年、本格的練羊羹は2年というものもあり。左の例を参考に、**自分好みの「ラインナップ」を作りましょう。**主食+副食+水を基本に、甘いものもオススメ。例:パックごはん+カレー+水+フルーツ缶詰
1日必要カロリーは1,800kcal、水は食事分も含め1.5ℓを目安としてください。

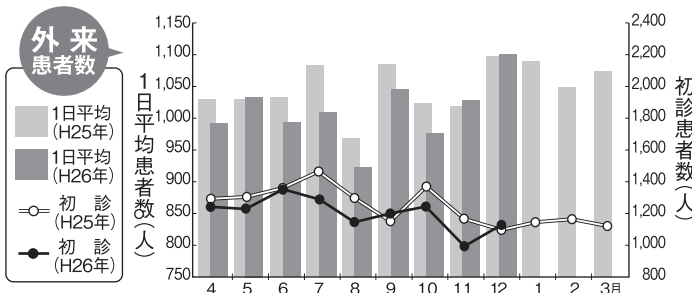
「家庭備蓄は1週間分以上を」by中央防災会議(H25.5)

家庭での備蓄例は県啓発冊子『南海地震に備えちよき』を参考にしてください。

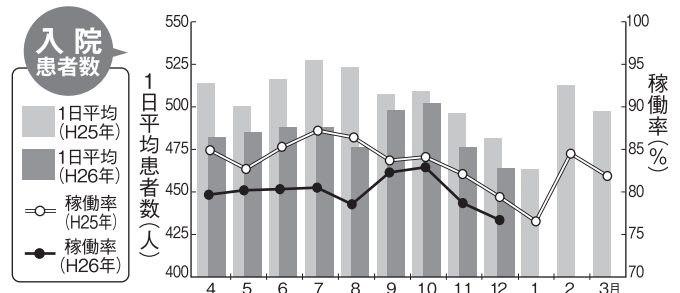
自宅や通勤経路の
想定被災状況
(津波浸水など)を考慮し、
品目・量を決めましょう。



診療状況



11月と12月の1日平均患者数は昨年と同様。
初診患者は昨年と比べると11月は低かったが12月は同等となった。



患者数・稼働率とも4月より昨年と比べ低い位置で推移していたが
9月・10月に持ち直した。しかし、11月と12月は稼働率が80%を切る低い値となった。

編集後記

平成27年の新しい年を迎え、病院ニュースも通算161号となりました。これからもよろしくお願いたします。

さて、本号には、医療安全・質向上のための相互チェックとエコチル調査の話題が取り上げられています。医療安全の取り組みもエコチル調査も、積み重ねた事例データに基づいて分析を行い、原因を特定し改善を試みる点は共通の課題であり、今後の医療の質の改善、予防、そして、発展に大きく貢献できると期待されます。

第二病棟の建設が完成し、今年から中央診療棟の改修と、開発計画が進められております。再開発により運用の変更が生じると、診療業務への負担が普段よりも増す事が予想され、過去の事例から積み重ねてきたノウハウが適用できず、想定外の事象も発生する可能性も否定できません。今回取り上げられた相互チェックによる他病院の視点からの評価は、フレキシブルな業務改善を実践していく上で、とても大切なことだと考えます。

(文責:片岡 浩巳)